



Murata High School 100th Anniversary

# 百年通信

プラス2 2026.7.8 発行

宮城県村田高等学校 総務図書部

## 「新生 村田高校(平成18年度～)」の歩み

村田高校 ➡ 平成18年度入学生から、今につながる大きな改革を実施

□ 3クラス 4系列への精選 部活動の整理 制服の一新

近隣中学校の生徒へ「新生 村田高校」を一緒につくっていこうと強くよびかけた

平成21年度(3クラス・4系列 完成2年目)の在籍生徒数 341名 出身市町村(中学校)別生徒数  
村田町・99名 川崎町・44名 大河原町・71名 蔵王町・44名 柴田町・51名 仙台市・13名  
この頃の4系列の選択者数

吹奏楽部(部員28名)が県大会・小編成の部で金賞受賞, 東北大会に出場



介護福祉士国家試験(平成20年度入学生まで)・自動車3級整備士(平成26年度入学生まで)の  
受験資格を取得できた年度まで, 放課後や卒業式後も講習を実施し, 成果を上げていたが,  
社会情勢の変化 ⇒ 教育課程の見直し ⇒ 受験資格を取得できない教育課程に

取得資格・介護福祉士 ⇒ 介護職員初任者研修 系列名・自動車系列 ⇒ 機械・自動車系列

平成26年度 創立90周年式典…… 地域連携事業が充実

- 【パソコン講習会】村田町教育委員会 ●【村田特産オリンピア白菜の収穫を通して学ぶ】村田小
- 【村田音頭大会】村田GPS《村田小中学校の保護者》・村田一中
- 【心温まる吹奏楽コンサート in あいやま】村田一中 ●【交通安全人垣運動】村田小・村田一中
- 【蔵の町むらた“布袋まつり”】 ●【みやぎ村田町“蔵の陶器市”】村田町商工会

平成29年度「志フォーラム2017」(県庁)「村田町志教育実践事例発表会」(中央公民館)で実践事例発表

平成30年度 入学生99名…… 総合学科開設以来初めて入学者が100名を下回る

- 仙南地区(村田町・川崎町・蔵王町・大河原町・柴田町)中学3年在籍 生徒数…… 急速に進む生徒数の減少
- 平成17年度:975名 ● 平成29年度:853名 ● 令和3年度:744名 ● 令和7年度:656名

村高生徒数 ⇒ 平成20年度:344名 令和元年度:265名 令和3年度:185名 令和8年度:114名

### 平成18年度以降の出来事



リーマンショック(H18) 東日本大震災(H23.3.11) コロナ禍(R2～)  
人口減少社会の到来(H18:1億2777万人 → R8:1億2242万人 → R28:1億人(推計))

創立以来, 村田高校は, 時々の要請に応じて自ら改革を続けてきました。その歩みは,  
大正から令和にいたる, 時に極端であった日本社会の変容を映し出してもいます。

村田高校は, これからも社会の変化に向き合う学校として,





## 新生 村田高校の鼓動



### 平成18年度 入学式「誓いの言葉」より

伝統ある村田高校に入学できたことを光栄に思います。今年から新たなスタートを切る新生村田高校の第一期生として、私たちは期待に胸を膨らませながら、今日という日を迎えました。自分の夢に向かって精一杯努力していきたいと思います。私たちは、今日から村田高校の生徒として、充実した高校生活を送ることをここに誓います。



### 福祉系列での課外講習 福祉科教諭 談

宮城県の高校で教科「福祉」を最初に実施したのが村田高校です。私にとっても福祉教育は、初めての経験で、介護福祉士国家試験の指導は生徒と一緒に学びながら挑戦しました。生徒たちから「課外をして下さい」「問題集を購入したい」等と積極的に要望され、放課後の課外講習は時間を忘れて楽しく指導ができました。宮城県で男子最年少の介護福祉士誕生が話題となり、県庁で校長先生と一緒に汗をかきながらの記者会見も体験しました。



### 平成24年度 吹奏楽部 部長 談

宮城県代表として全国高等学校総合文化祭(富山県魚津市)吹奏楽部門のステージで演奏を披露することができました。部員一人一人が、12分という短い演奏時間に、3年間積み重ねてきたものすべてを注ぎ込みました。目標である「お客様も楽しみ、村田高校にしかできない演奏をする」を全員が一つになって成し遂げたと実感することができました。



## 地域で生きる村田高校



### 令和5年度 3年次主任 談

この3年間、生徒の皆さんとともに地域と連携し、様々な活動に取り組んできました。私自身、今の社会で求められる能力について調べ・考え、「こんな能力を身に付けてほしい」「そのためには、こんな授業を行いたい」そんな思いで3年間様々な授業を準備し、実践してきました。



### 令和5年度 卒業式「答辞」より

村田高校の系列での進路を見据えた学習はもとより、1年次は「村田町をPRするCM制作」、2年次では「村田町の空き蔵を使ったビジネス体験」等、3年間、教科書では学ぶことができない学びでも私たちは成長することができました。

### 創立100周年記念式典(令和6) 生徒会長 謝辞

村田高校総合学科は、県内でも数少ない特別な学科です。私が入学して感じたことは、自己理解を深めることで進路選択をしていく総合学科の良さです。進路に合わせた系列を選択し、自分の興味・関心に応じた授業の選択をすることができます。自ら考え、進路実現に向けて取り組める村田高校は、生徒一人ひとりを成長させてくれる学校です。

創立100周年を迎え、伝統の詰まった村田高校を守りつつも、私たちは次の100年に繋げる新たなスタートを切ります。現在の村高生全員が10年後・50年後も村田高校を誇りに思えるよう、常に進化し続ける学校を目指しています。



## 「生きがい」について (内田より)



「あなたにとって《生きがい》とは何ですか？」何年前か、全校集会での校長先生の話(《生きがい》について)を聞いて、フラッシュバックに襲われた。誰も気づかなかったと思うが、一瞬意識を失い、倒れかけた。危なかった。

高校3年の10月、国家公務員の二次試験(集団面接・作文)を受けた。集団面接の受験生は8名、A～Hのネームプレートを着け、3名の面接官の前に横並びで着席し、面接は始まった。ウチダはDのプレートを着け、横並びの中央となった。「しめた！」である。面接官からの質問は、両側(A君or H君)からされるはずあり、どちらから質問されても返答を準備する時間があるからだ。思った通り、A君側から質問が始まり、H君まで答えた後、次の質問はH君からA君へと続き、ウチダは質問への返答を整理して話すことができていた。しかし、自覚はしていなかったが、すでに思い通りにならない、まさかの人生を歩んでいたウチダである。面接を順調に終えることはできなかった。面接開始から30分を過ぎた頃であっただろうか。H君から始まった質問が、D君であるウチダの番になった。質問への返答をしようと構えたところで、面接官は思いがけないことを言った。「ここで、質問を変えます」「D君、あなたにとって《生きがい》とはなんですか？」と問うたのである。「ひえ～」と、発しそうだったが、何とか飲み込んだ。当時は、毎日ひたすら高校生活を楽しんでおり、取り立てて《生きがい》を意識したことなどあるわけがない。時が止まり、「とにかく話し始めろ!!」と右脳が叫んだ。指令を受け、面接官に向かい話し始めたが、今度は、左脳が「ピントのズレた話しをしているぞ!!」と叫ぶ。右脳と左脳が混乱し、ついに脳はショートした。その後の記憶はない。

「生きることの意味や価値を感じさせるもの」が《生きがい》である。今思えば、日々の高校生活を充実させていた活動こそが《生きがい》でだったと言えるが、当時は、そのような思いには至らなかった。高3の秋～冬、進路が迷走したウチダは、最後の最後に裏口ではなく、表から大学に滑り込んだ。今では、母校となった大学のラグビー部の観戦(応援)が《生きがい》となっている。

